The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	画像処理システムの利用例(リニア編集) ベータカムからS-VHSへのダビング
Author(s)	福田, 優子; 岡本, 匡代
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1998, 110, p. 3-6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66302
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

画像処理システムの利用例（リニア編集）
ベータカムからＳ-ＶＨＳへのダビング

大阪大学レーザー核融合研究センター
福田 優子・岡本 匡代

大型計算機センターに導入された新しい画像処理システム、特にノンリニア編集装置を用いてやってみたいことはいろいろありますが、とりあえずリニア編集を行うことができました。大型計算機センターにはまるで放送局のような立派な装置が入っています。利用者にとっては、あの機器の山をみただけで、どのスイッチをさわっていいのか恐ろしくなってしまいますが、使い方さえ分かればとても便利なものです。今回、リニア編集装置を使ってビデオのダビングをすることができましたので、ご報告したいと思います。

大型計算機センターには、ビデオ機器として、デジタルのデジタルベータカム（デジベタと略し、スイッチャーにはDIGI βと書かれています）、DVCAM、DVCPRO、アナログとして、ベータカム(βCAM)、S-VHS、Hi-8が導入されています。その他の画像処理サーバー（SGI/Onyx2 Infinite Reality)、ノンリニア編集装置（JAREO)、リニア編集装置（BVE-2000)などとスイッチャーで接続されており、簡単に装置を切り換えることができます。今回行ったのは、ベータカムからS-VHSへのダビングですが、スイッチャーで自分の使いたいビデオ機器をきちんと選択すれば同じことは簡単にできます。

それぞれの機器はローカルで利用する場合と、リモート（遠隔）で操作する場合があり、注意が必要です。それぞれの機器で、リモート／ローカルのスイッチを設定するだけですが、いくつかリモート／ローカルのスイッチがある機器もありますし、操作ボタンが多数あって、見つけにくい場合もありますので、大型計算機センターの承認をいただき、リモートのスイッチの近傍に緑のテープを貼らせていただきましたので、参考にして下さい。

余談ですが、大計センターのS-VHS（SONY/SVO-5850)は民生用ではなくて、業務用の上等です。VHSもS-VHSもテープを入れると自動認識してくれます。VHSにダビングしたければ、VHSのテープを入れればよいだけです。しかも、通常VHSやHi8にはタイムコードはつけられませんが、大計センターに導入されている機種はつけることができます。リニヤ編集を行うときはタイムコードを使用しないといけませんが、このタイムコードは同じ機種でしか使えません。タイムコードのところのスイッチをＴＣにするとタイムコード、ＣＴＬとすると普通のビデオのように使えます。CTLにしておくと、カウンタリセットも効きますし、テープの時間も表示されます。編集の際には、公称３コマの誤差がでる可能性があるとのことで、放送局ではＣＴＬは使わないようですが、大学の研究者が使う分にはＣＴＬで充分でしょう。でも、今はリニヤ編集をしたいので、ＴＣで作業を進めます。

また、この機種のタイムコードには、２種類ありますが、機種の設定はもうされていますので、それは気にせず作業を進めて下さい。くれぐれも設定を勝手にいじらないようにしましょう。次に使う人が困ります。もし変更したら、必ずもとの状態にもどすべきですが、大計センターの利用者がそのような使い方をするというのは、あまり考えられませんからシステム管理掛の方に相談するべきでしょう。

では、手順を以下に記します。

1）S-VHSのテープにタイムコードを付けます。

1-1)ローカルにします。

1-2)S-VHSまたはVHSのテープを挿入します。

1-3)タイムコードをつけます。
（S_VIDEO、AUTO、BLACK）のスイッチをBLACKにします。
その横のスイッチは TC　AUTO　INT としておいて下さい。
REC と PLAY を同時に押して、１５～２０秒くらいは、黒の画像とタイムコードを挿入します。（もちろんもっと長く挿入してもかまいません）
このとき表示されるタイムコードは、13:05:21:15のような値ですが、この値自身はこの機種しか使えませんし、気にしないで下さい。０からつけようなどと考えてはいけません。リニヤ編集の際には、この値を使ってテープの位置を決めます。

1-4)（S_VIDEO、AUTO、BLACK）のスイッチをS_VIDEOにもどします。

ちなみに、今回ダビングしたレーザー研の紹介ビデオは、CH1に日本語、CH2に英語が録音されており、片側の音だけを録音したいという場合があります。こういう場合は、S-VHSの音声のレベルを片側だけ０にしておくと、片側の音声だけが録音できます。ベータカム側で選択しようとして失敗しました。こういう風に音声レベルをさわった場合は、次の人のために、作業終了後もとにもどしておくことが望ましいことは言うまでもありません。

2）ベータカム、S-VHSの準備

リニア編集装置からリモートで操作するために、ベータカム、S-VHSとも
リモート／ローカルのスイッチはリモートにします。

3）スイッチャーの準備（基本的に下のスイッチから設定します）

＜下段の映像音声切り替えパネルにて＞
（画像、音声のベータカムからS-VHSへの設定）
デスティネーションの S-VHS を押下します。
ソースの βCAM を押下します。

（音声をスピーカーから出力させる設定）
デスティネーションの Speaker BOSE を押下します。
ソースの S-VHS を押下します。

＜上段のリモート切り替えパネルにて＞

（リニア編集装置のPortA（出力）をS-VHSに設定）
デスティネーションのS-VHSを押下します。
ソースのBVE-2000　PortAを押下します。

（リニア編集装置のPortB（入力）をベータカムに設定）
デスティネーションのβCAMを押下します。
ソースのBVE-2000　PortBを押下します。

4）リニア編集装置（BVE-2000）

4-1)SHIFTキーと右上のASEBLキーを同時に押下して、ASEBLにする。

この装置では、Ｐ１がプレーヤーでＲがレコーダです。この場合には、ベータカムがプレーヤで、S-VHSがレコーダです。
まず、プレーヤ側のどこから（どこまで）録画するかを設定します。

また、下記の作業はモニタを見ながら行いますが、モニタは、リニア編集装置の所に３台あり、それぞれ直接ビデオ装置につながれています。モニタの下にＡ，Ｂ，Ｃとチャネルがありそれぞれ切り替えられるようになっています。どのモニタの、どのチャネルが、どのビデオに対応しているかは、モニタにテープがはってありますから、それを参考にして下さい。その間にこのリニア編集装置のモニタもありますので、そのモニタも見ながら次の作業を進めます。

4-2)P1を押下し（プレーヤー側の設定）、ベータカムのモニタを見ながら、丸いダイヤルを回して録画を開始する位置を決めます。

4-3)MARK INを押下します。
録画の頭を決めたことになります。（最後を決めたい場合は、同様に丸いダイヤルで録画終了位置を決め、MARK　OUTを押下します）

4-4)Rを押下し（レコーダー側の設定）、S-VHSのモニタを見ながら、丸いダイヤルを回して録画を開始する位置を決めます。

先程１５秒から２０秒はタイムコードをつけてあるので、１０秒から録画することにするなら、１０秒を設定します。（最低でも、６秒以降から始めること）

4-5)MARK INを押下します。録画される先頭の位置を決めたことになります。
（録画される側の最後を決める必要はありません）

ここで、念のためＣＵＴとＰ１を押下しておくとよいそうです。

5）いよいよダビング開始

5-1)BVE-2000のAUTO REC（左上の赤いボタン）を押下します。
これで自動的に設定した位置からダビングが開始されます。

中断、または正常に終了して、止める場合はALL STOPを押下します。

以上でダビング終了です。今までは、録画される側のRECキーと録画する側のPLAYキーを同時に押してダビングしていましたが、スマートに、ダビングすることができるようになりました。何本かダビングする必要があるときにも、全く同じものを簡単に作ることができます。P1スイッチの他にもＰ２，Ｐ３とスイッチがありますので、複数のテープから編集することができるようですが、そこまでは手が回りませんでした。編集装置ですから、もっと凝ったことはたくさんできるはずですが、凝った編集をしたいならノンリニア編集の方で行う方が便利だと思います。次回はノンリニア編集装置についてご報告する予定です。

（おまけ）電源を落とすときの注意

画像編集システムの電源は、個々のマシンの電源ではなく、３つのラックの一番下にある元の電源スイッチで入れたり切ったりするようになっています。電源を落とすときは、中にテープが残っていないか確認するようにしましょう。テープが痛むだけでなく、ヘッドに巻き込むなどのトラブルのもとになるそうです。

せっかく、大計センターまで使いに行ったのに、他の人が使用中ということになるといけませんので、WWWの予約システムで予約してから出かけるようにしましょう。